

# 字幕の中に人生

女と男、ともに豊かに生きる

平成26年10月18日、保健センターにおいて、映画字幕翻訳者の戸田奈津子さんを講師にお迎えし、男女共同参画講演会を開催しました。



## バラ色の世界に魅了されて

戦後の日本の唯一の娯楽が映画でした。敗戦で焼け野原になった貧しい日本と全く違う夢のような世界に、カルチャーショックを受けました。それからどんどんハマって映画が好きになったのです。

人間が生きていく中で、「好き」というものは大きな力を生み出してくれます。好きになった人のことは、もっと知りたいと思うようになるでしょう？ 私は映画の中の世界がもっと知りたく

口と「字幕がやりたい」と答えました。そうしたら監督が『地獄の黙示録』の字幕をさせてくれるよう映画会社に推薦してくれたので、鶴の一声で決まりました。それが最初の本格的な字幕翻訳の仕事でした。そのときには、もう40才を過ぎていました。

## 字幕翻訳に必要なのは日本語力

外国映画を字幕で観ているのは日本人くらいで、この国でも吹き替えて



なって、そのために英語を中学、高校、大学の10年間、猛烈に勉強しました。

## 映画に関わる仕事がいっぱい

大学卒業前就職となったとき、大好きな映画に関わりながら、しかも英語が活かせる仕事と考え、映画字幕がやりたいと思いました。

ところがどうしたらなるのか、皆目わかりませんでした。今のように入社ネットなんてない時代ですから、全く調べようがありません。映画会社に足を運び、ようやくわかったこと

す。それは日本人の識字率が非常に高く、また俳優の生の声を聞きたいというこだわりがあったからのようです。

翻訳の仕事では、英語がわかるのは当たり前で、大切なのはむしろ日本語です。英語であっても、日常会話では決して難しいことを言っているわけではないのです。それを皆さんがわかるように日本語の日常会話に訳すわけですから、日本語を知らないときません。

ところが現在は活字離れが進んでいて、漢字が読めない、字幕が読み切れない若者が増えてきています。日本人のコミュニケーションは日本語です。英語を学ぶのも大切ですが、そのために日本語を犠牲にしてはダメなのです。英語を上達させるには、「読む、書く、聞く、話す」の4つのバランスが大事です。語学の道に近道などありません。

## 映画を変えたい名監督たち

CG\*を最初に使ったのはジョージ・ルーカス監督の『スターウォーズ』でした。彼は「10代の時に考えた話を人に聞かせたい。頭の中の映像を見せたい。」とシリーズの制作を始めました。ところが着ぐるみの宇宙人が暴れる当時の撮影技術では、壮大な構想を見せるのに限界がありました。そこでエン

は、当時、映画の字幕翻訳をしていたのは、10人足らずの男性ばかりということ。そこは誰も入れないガツリと壁に囲まれた閉鎖された世界で、大学を出たての若い女性には叩く扉もなく、狭き門の門すらありませんでした。

## 壁の周りをぐるぐる20年

30才を過ぎた頃、ようやく映画会社でタイプライターの仕事をさせてもらうことができました。そんなある日、上司命令で映画の宣伝で来日するハリウッドスターの通訳をすることになり

ジニアである彼は、思い通りの映像が撮りたいとCGを開発したのです。

同様に、頭の中の映像を立体的な映像にして見せたかったジェームズ・キャメロン監督は、3D\*\*の開発に没頭しました。そして3Dカメラを自らデザインし、メーカーに持ち込んでようやくシステムを完成させ、『アバター』を制作しました。

「映画」は英語で「フィルム」と言いましたが、今ではフィルムがなくなっただけで、今ではデジタル化されました。少年の頃の夢を持ち続けた彼らの、夢を実現させる努力、それが映像を変え、映画そのものを変えたのです。そして、このように、彼らが夢を叶えたという事実こそが、日本の若者にも力強い励みになるものと思います。

今では、世界には開拓するような未知の「地」はもうないけれど、頭の中の「知」は未知の世界がたくさんあり、まだまだ開拓すべきものがあります。自分の夢に向かって「やる気を持ち続ける事」が大切です。やる気があれば誰だってできる。特に若者には未知の世界にぜひ挑戦して欲しいものです。

\*1 CG...コンピュータを使って描かれた画像。または、それらを作成する技術。  
\*2 3D...立体映像。

## 取材を終えて

大盛況で終わった会場のホワイトボードに書き残された「You cannot have everything」(全ては手に入らない)の一言、この言葉が先駆者の笑顔の裏側を物語っていました。  
戸田さん、お忙しい中ありがとうございました。

(編集協力員 松本 千鶴子)

## 映画字幕翻訳者 戸田奈津子さん

映画の字幕翻訳者として第一線で活躍。津田塾大学英文科卒業。1970年「野生の少年」「小さな約束」で字幕翻訳家デビューした。その後、10年近い下積みを経て、1980年の話題作「地獄の黙示録」で本格的なプロとなる。来日する映画人の通訳も依頼され、長年の友人も多い。

●代表作  
「E.T.」「インディ・ジョーンズ」「フォレスト・ガンプ」「タイタニック」「007シリーズ」「パイレーツ・オブ・カリビアン」「ラスト・サムライ」「アバター」「ミッションインポッシブル」など1,500本以上におよぶ。

